

令和8年



多気営農センターより



今月は、稲刈り、茶園の防除、また秋冬野菜の播種等の時期になってきます。気温が高く、日差しも強い炎天下での作業になるので、体調の管理にも気を配り無理の無いよう作業に努めてください。

水稻

今年は、梅雨時期に雨が多かったですが、梅雨明け後は非常に気温が高く推移しました。稲の生育は平年並みで、早い圃場では7月前半に出穂が見られました。



収穫前の落水は土壌条件にもよりますが、一般水田では収穫7日前が落水時期の目安です。落水が早いと未熟粒・胴割粒の発生を助長します。落水後も田面が乾くようなら走水をおこない登熟を促しましょう。今後も高温が続く予想のためできるだけ遅らせ登熟障害を受けないように気をつけてください。

収穫時期の目安

コシヒカリの場合、4月下旬田植えで出穂期後33～35日で、穂の基部に緑色もみが3～4粒程度残る頃が、収穫適期です。



例年より早くなるところもあると思われるので刈り遅れには注意しましょう。

収穫・乾燥調整の留意点

- 胴割米防止 ⇒ 早期落水・刈り遅れ・高温急速乾燥は厳禁！
- やけ米防止 ⇒ 収穫後4時間以内に乾燥機へ投入
- 適正水分 ⇒ 乾燥調整は14.5～15.0%
- 早刈り厳禁 ⇒ 青米・小米が多くなり等級の低下・収量が減少します
- 乾燥調整 ⇒ 乾燥速度は1時間に0.8%以下の乾燥
米選機のふるい目は1.85mm以上で、粒数は少なめ



令和8産米出荷（地場）

出荷契約書の提出をいただいている方に、令和8年産米概算金が決定しだい、米概算金のお知らせ文書と令和8年産米集荷案内文書を配布させていただきます。

お茶

今月の茶園の管理は病害虫防除が中心になります。現在の芽の状態にあった病害虫防除を行いましょう。また、必要に応じ基幹防除に加えて追加防除を実施して下さい。過去に多発した茶園では特に注意していただき、近隣茶園と散布日を合わせるなど、広域で一斉防除すると効果が高くなります。

8月下旬～9月は茶芽が年間で最も伸びる時期となります。土壌改良材は8月中旬、秋肥は8月下旬～9月中旬を目安に施用を行ってください。

防除 8月中旬～下旬頃 芽の状態「硬化期」

ハマキ類・ヨモギエダシャク・チャノホソガ

テッパン液剤 1,000倍 収穫3日前/1回

シャクトリ・ハマキ類多発園 アファーム乳剤 1,000倍 収穫7日前/1回



土壌改良剤の施肥

8月中旬 アズミン苦土石灰 160kg/10a

もしくは 苦土石灰マグカル/粒 160kg/10a

秋肥の施肥

8月下旬～9月中旬 有機ごまの大地ペレット 160kg/10a

お茶かなペレット833 160kg/10a

もしくは 有機ごまの大地ペレット 160kg/10a

お茶ペレット922 160kg/10a

台風対策(露地野菜編)

これからの時期は台風が襲来しやすくなります。事前に下記の対策をしておくことで被害を軽減できますので、参考にしてください。

- 冠水や浸水の恐れがある圃場は、排水溝の雑草や土砂等を取除き水落部分を作っておく。
- 播種直後のものやキャベツ等の苗床は、寒冷紗をベタがけして風で飛ばされないよう固定する。
- 幼苗期のものは、土寄せ・土入れを行い株の揺れを防ぐ。
- 果菜類は、支柱の補強をし、収穫が済んだ側枝や不要な枝や蔓を取除く。または、畝の上に倒し防風網や寒冷紗等で押さえ台風通過後に元に戻す。
- ☆ 台風通過後は、速やかに圃場排水を行い、ベタがけ資材等を除去し付着した泥等は洗い流し薬剤防除をする。
- ☆ 株元が露出したり土壌が固まっていたら、天候の回復を待って株元へ土寄せを行い、全体を軽く中耕し土壌の通気性を良くする。
- ☆ 豪雨により肥料の流亡が考えられる場合は、速効性の肥料を追肥し、草勢の回復を図る為に薄めの液肥を葉面散布する。



肥料・農薬など栽培に関するお問い合わせは

多気営農センター39-6170 または各営農指導員携帯へご相談ください。

